



昨年秋に右大腿骨頸部を骨折し、右脚にスクリューとボルトが入っています。歩くと痛み、医師には2、3年後に大腿骨頭壊死になる可能性が高く、人工股関節の手術もあり得ると言われました。予防はできないのでしょうか。(55歳、女性)

### 大腿骨頭壊死

大腿骨頭壊死はおおむね2種類に分かれます。まず、ステロイド薬の全身投与歴や習慣的な飲酒などが関連しているものの、まだ発生のメカニズムが解明されていない「特発性大腿骨頭壊死」があります。そして、脱臼や骨折などの外傷や放射線照射といった原因

大腿骨頭壊死の原因には、血流不足が作用します。ご相談にあるのは、骨折により大腿骨の上の部分である大腿骨頭へ血液を送る血管が損傷した結果、血流が途絶えて骨壊死が起きた状態です。医師は「大腿骨頭壊死の可能性が高い」と指摘しており、おそらく

しかし、大腿骨頸部を骨折した患者を対象に、画像診断装置を使った研究では、約半数の患者が負傷から1カ月以内に骨頭壊死を確認したという報告があります。これは大腿骨頭壊死が、外傷を負ったから1カ月以内に発生する可能性を示唆していると言える

要になっても、良好な成績が報告されています。手術とリハビリに取り組めば日常生活への復帰も十分可能です。医師の指示に従い、通院を続けることをお勧めします。(兵庫県整形外科医会、黒田雄一 神戸市中央区、神戸大病院 整形外科、助教)

## 人工股関節手術で日常復帰可能

因が明確なものが「二次性大腿骨頭壊死」です。ご相談では、大腿骨頸部を骨折し、手術を受けたとあります。そのため、医師が言及しているという大腿骨頭壊死は、外傷性による二次性大腿骨頭壊死を指すと考えられます。

く骨のずれが大きかったと推測できます。骨折後の大腿骨頭壊死の発症は、受傷時に血管がどれだけ損傷したかに起因します。このため、大腿骨頭壊死の予防は、非常に難しいと言えるでしょう。

でしょう。ご相談のケースでは、骨折は1年ほど前とのことなので、まだ骨頭壊死と診断されていないければ、少し安心できるかもしれません。もし大腿骨頭壊死により、圧力がかかって骨頭が壊れてしまい、人工股関節手術が必要